

>>> 基本目標 **4** 未来につなぐ図書館

取組方針1 図書館がもつ資源を有効活用します。

取組方針2 効果的・効率的に図書館を運営します。

取組方針1 図書館が有する資源の有効活用	
<p>図書館が有する資源を有効活用するため、施設の維持管理や人材の確保・育成等について継続的に検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設やサービスのあり方、有効活用の方法について検討します。 ➤ 市内外の様々な図書館と連携し、図書館間のネットワーク機能を充実させます。 ➤ 図書館で働く職員の資質向上を目指し、効果的な研修等に取り組むとともに、やりがいをもって働ける環境づくりに努めます。 	
考えられる 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設の有効活用（ラーニングコモنزの整備など） ✓ 建物の立地・文化的価値を生かした取組の推進 ✓ 蔵書の効果的な保存方法の検討（書庫の集密化など） ✓ 図書館のアウトリーチサービスの充実 ✓ 市立図書館ネットワークの機能強化 ✓ 国や県、他都市、近隣自治体の図書館との連携機能の強化 ✓ 職員の専門性や企画力・提案力を高める取組の推進

*用語解説

- ・ラーニングコモنز：学生への学習支援の充実を目指して、主として大学図書館が提供する学習空間及びサービスの総称。グループ活動用に家具や設備を設置したり、情報環境を整備したりするほか、図書館職員などによる学習支援も提供する。
- ・アウトリーチサービス：図書館側から出向いて行う各種のサービスの総称。

取組方針２ 効果的・効率的な運営	
<p>将来にわたって市民に親しまれる図書館となるよう、社会の状況の変化等に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な図書館運営を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 業務の一部アウトソーシングや安定した図書館運営のための財源確保など、図書館運営において民間活力を活用します。 ➤ 業務や利用者サービスにおけるデジタル技術の活用を推進します。 ➤ 本計画の実施状況等について適切に図書館評価を行い、その結果を反映させた図書館運営を行います。 	
<p>考えられる 主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指定管理者制度の活用 ✓ 利用者アンケートの実施 ✓ 雑誌スポンサー制度等の活用 ✓ 図書館サービスにおけるDXの推進 (イベントのオンライン配信、ICタグ導入拡大検討など) ✓ 図書館の作業的業務のDX推進 (蔵書点検におけるデジタル技術の活用など)

*用語解説

- ・アウトソーシング：従来は組織内部で行っていた業務を外部の専門業者などに委託すること。
- ・指定管理者制度：地方公共団体が設置する施設の管理、運営を、地方公共団体が指定した民間事業者を含む法人・団体に行わせる制度。
- ・雑誌スポンサー制度：雑誌スポンサー（団体・企業等）が雑誌を寄贈し、その雑誌の最新号の雑誌カバーにスポンサーの広告を表示するなどして図書館利用者の閲覧に供する制度。
- ・DX（デジタル・トランスフォーメーション）：デジタル技術を用いて生活や社会、ビジネスを変革すること。

第4章 計画の推進に向けて

1 成果指標

		指標	現状値 ※令和5(2023) 年度末時点	目標値 ※令和22(2040) 年度末時点	主に対応する 基本目標
(1)	利用登録状況	年間の新規登録者数	16,470人	17,000人	1・2・3・4
		登録率(対人口比)	22.6%	25.0%	1・2・3・4
		20代以下の登録率(対人口比)	20.6%	25.0%	1
(2)		読書好きな児童生徒の割合	小6:76.4% 中3:68.0%	小6:95.0% 中3:75.0%	1
(3)		レファレンス件数	33,833件	37,000件	1
(4)	利用者アンケート (満足度)	説明のわかりやすさ	98.5%	90.0% 以上を維持	1・2・3・4
		調べ物の役立ち度	93.9%		
		展示・行事の内容	92.9%		
		本の品ぞろえ	89.8%		
		本の探しやすさ	93.6%		
		(新)居心地のよさ	-		
(5)		アクセシブルな書籍等の点数※	9,168点	11,000点	2
(6)		ボランティア活動延べ人数	4,883人	5,300人	3
(7)		市民や各種団体等との連携事業件数 (イベント・企画展示・職員派遣等)	914件	1,000件	3

※「アクセシブルな書籍等の点数」とは、大活字本、点字図書、点字付き絵本、布絵本、LLブック、録音図書、デージー図書、電子書籍(音声読み上げ対応)、電子書籍(オーディオブック)の合計点数を指します。

2 進行管理及び評価の実施

本計画を市立図書館14館全体で共有し、目指す姿に向かって一丸となって取組を推進します。計画を着実に進めるため、年度ごとの事業計画を作成し、毎年度実施する図書館の運営に関する評価において、事業計画における取組及び目標達成状況について振り返り、進行管理を行います。

評価の際は、成果指標に加え各種統計、利用者アンケート等を活用し、図書館による内部評価と図書館協議会委員による外部評価を実施します。また、評価の結果を次年度以降の事業計画立案に生かします。

資料編

1 法令上の位置づけ

この計画は、「図書館法」第7条の2に基づく「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省告示)に定める、「市町村立図書館における基本的運営方針及び事業計画」です。

また、北九州市立図書館の運営に係る部分について、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」第8条第1項に定める「地方公共団体における視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」の一部として位置づけます。

2 図書館を取り巻く状況

(1) 図書館に関する法整備等

※国…国の定める法令や計画等/市…北九州市の条例や計画等

区分	法令・計画名	概要
北九州市の 新たな ビジョン	市 北九州市基本構想・基本計画(北九州市、令和6年)	○北九州市で最上位に位置づけられる計画。 ○北九州市が目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略(「稼げるまち」、「彩りあるまち」、「安らぐまち」)
北九州市の 教育プラン	市 北九州市こどもまんなか教育プラン(北九州市教育委員会、令和6年)	○教育大綱で示された「こどもまんなかで質の高い教育環境」の実現に向けて、学校が特色を持ち変革していくためのきっかけづくりとなる事業をまとめたもの。 ・安全で安心して過ごせる居場所 ・市民の学びを支える図書館の機能強化 ・多様な学びの場やサードプレイスの確保
こどもの 読書活動 推進	国 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(文部科学省、令和5年)	○すべての子どもたちが読書活動の恩恵を得られるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進するもの。 ・学校や図書館、その他の関連団体の連携による子どもの読書活動の推進 ・多様な子どもたちの読書機会の確保 ・デジタル社会に対応した読書環境の整備
	市 第4次北九州市子ども読書活動推進計画(=北九州市子ども読書プラン)(北九州市教育委員会、令和3年)	○「北九州市子ども読書活動推進条例」等に基づき、子どもの読書活動推進のための目指す姿、取組みの方向性、取組方針などを定めるもの。

バリアフリー	<p>国 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(=障害者差別解消法)(平成25年法律第65号)</p>	<p>○障害の有無によって分け隔てられることなく共生する社会の実現に資することを目的とし、障害を理由とする差別の解消のための基本的な事項などについて定めたもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不当な差別的取扱いの禁止 ・合理的配慮の提供 ・合理的配慮を的確に行うための環境の整備 ・関係職員に対する研修、その他の環境整備
	<p>国 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(=読書バリアフリー法)(令和元年法律第49号)</p>	<p>○障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセシブルな電子書籍等の普及及びアクセシブルな書籍の継続的な提供 ・アクセシブルな書籍等の量的拡充・質の向上 ・視覚に障害のある人等の種類・程度に応じた配慮
	<p>市 北九州市障害者支援計画(北九州市、令和6年)</p>	<p>○障害のある人にかかる施策(生活支援、保健・医療、教育、就労、安全安心等)を総合的に推進するための基本計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術、余暇、レクリエーション活動の充実に向けた社会環境の整備 ・多様な生涯学習の充実
デジタル化社会	<p>国 デジタル社会の実現に向けた重点計画(デジタル庁、2024)</p>	<p>○「誰一人として取り残されない、人に優しいデジタル化」を目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・教育・防災・こども等の準公共分野のデジタル化 ・デジタル化による地域の活性化
	<p>国 著作権法の一部を改正する法律(令和3年法律第52号)</p>	<p>○各図書館等による図書館資料の複写物を電子化し、メール送信すること(公衆送信)について、一定条件下、可能とするもの。</p>
社会教育施設としての図書館	<p>国 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)(中央教育審議会、平成30年)</p>	<p>○多様化・複雑化する社会とその課題へ対応するため、図書館をはじめとした社会教育施設を「住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた幅広い取組や、行政をはじめとした地域の幅広い情報の発信拠点」としても位置付けるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館には地域の学習拠点としての役割に加え多部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割も期待されている。
	<p>市 北九州市生涯学習推進計画“学びと活動の環”</p>	<p>○市民一人一人の自己実現や学習した成果を活動に活かす自主的・主体的な学習活動を支援し、循環型生涯</p>

	推進プラン(北九州市、令和3年)	学習社会づくりを目指すためのもの。
「居場所」としての図書館	国こどもの居場所づくりに関する指針(こども家庭庁、令和5年)	○こどもの居場所づくりを目的とし、地方自治体や学校、社会教育施設に一定の考え方を示すもの。 ・図書館を含む既存の施設やボランティア等を地域資源として活用し、多様なこどもの居場所づくりを進める。
持続可能な図書館運営	市北九州市公共施設マネジメント実行計画(北九州市、平成28年)	○真に必要な公共施設を安全に保有し続けることができる運営体制を確立していくことを目的とし、公共施設の集約に関する考え方や具体的な取組みの進め方などを示すもの。 ・図書館の分館は、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減していくこととする。

(2) 北九州市の状況

北九州市の人口は昭和54(1979)年の106万8千人をピークに減少が続き、令和5(2023)年10月時点では91万6千人となっています。そのうち、65歳以上の高齢者が総人口の約31%を占め(令和5(2023)年4月時点)、政令市の中で最も高齢化が進んでいます。さらに、出生率は平成22(2010)年以降過去最低を更新し続けるなど、少子高齢化の状況にあります。一方で、総人口における転入者数から転出者数を引いたマイナス幅は改善傾向にあります。

総人口は減少傾向にありますが、市内に住む外国人の数については、年々増加傾向にあります。令和4(2022)年度末時点の外国人市民の数は約1.4万人で、北九州市の総人口の約1.5%を占めています。近年では多国籍化も進み、約100の国や地域にゆかりのある外国人が北九州市に住んでいます。また、在留目的についても永住、留学、技能実習など多様化が進んでいます。

3 北九州市立図書館について

(1) 概要

北九州市では、令和6(2024)年現在、各区に中央図書館(小倉北区)、子ども図書館(小倉北区)、6地区館(小倉北区を除く6区)及び6分館(門司区・小倉南区・若松区・八幡西区)の全14館を配置しています。そのうち、中央図書館を全14館の中核拠点、また、子ども図書館を児童室の中核拠点とし、市内全域で図書館サービスが利用できるよう図書館ネットワークを構築しています。

中央図書館と子ども図書館を除く12館では、指定管理者制度を導入し、専門的なノウハウをもつ指定管理者による運営を行っています。

また、それぞれの館は立地特性等も考慮した役割や資料収集テーマをもち、それに沿って資料購入等を行っています。

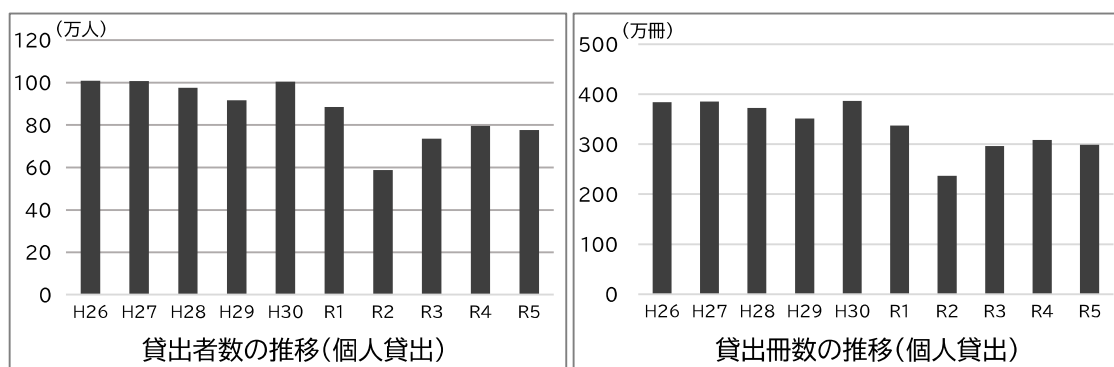
中央図書館・子ども図書館・地区図書館の特徴

館名	館の役割や資料収集テーマ	
中央図書館	全14館の中核拠点	
子ども図書館	児童室の中核拠点、学校図書館の支援	
地区図書館	門司図書館	海洋、港、観光、レトロ
	小倉南図書館	障害福祉、子育て、教育支援
	若松図書館	火野葦平文庫、環境問題
	八幡図書館	IT、国際化、高齢化社会、鉄
	八幡西図書館	産業技術、学術研究、長崎街道
	戸畑図書館	若山牧水、芸術(特に美術)

(2) 利用状況

貸出者数や貸出冊数は、平成30(2018)年に新たに小倉南図書館と子ども図書館が開館したこともあり、増加しました。その後、令和2(2020)年度から令和4(2022)年度までのコロナ禍で、臨時休館や開館時間の短縮などが行われたため、大きく落ち込みました。令和3(2021)年度からは回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の状況には戻っていないのが現状です。

なお、貸出者一人あたりの貸出冊数は3.8~4.0冊程度となっており、ここ10年間で大きな変化は見られません。



4 参考にした調査結果等

(1) 「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果(概要)

図書館の利用実態や市民の要望等を把握するため、アンケートを実施しました。結果の詳細は「『これからの図書館のあり方』に関するアンケート報告書」(別冊)のとおりです。

ア 実施概要

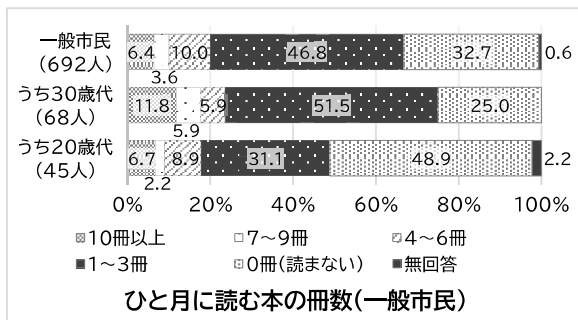
区分	対象	回答者数	期間	回収方法	設問数
一般市民	18歳以上の北九州市民	692人	令和5年 8月～9月	郵送または Web フォーム	20問
図書館利用者	市立図書館(14館)の利用者	822人		窓口提出または Web フォーム	20問
中高生	市内在学の中学校 3年生 市内在学の高等学校3年生	393人 558人		Web フォーム	20問
小学生	市内在学の小学校 6年生	606人		Web フォーム	10問

※「一般市民」及び「中高生」、「小学生」には、図書館を利用する人も含まれる。

※小学生対象のアンケートは質問数を減らし、表現を平易なものに変更して実施。

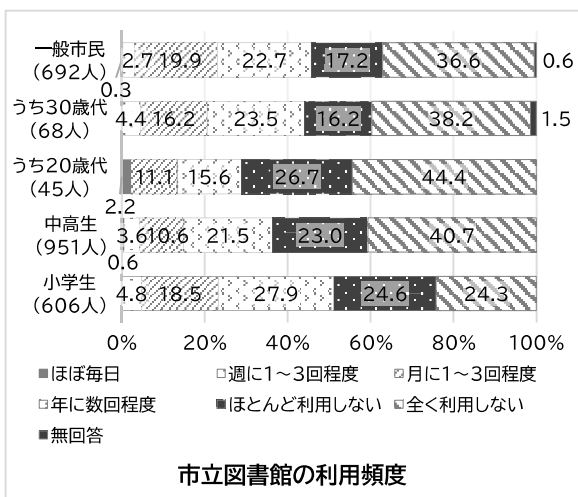
イ 結果概要(一部抜粋)

■ 読書習慣



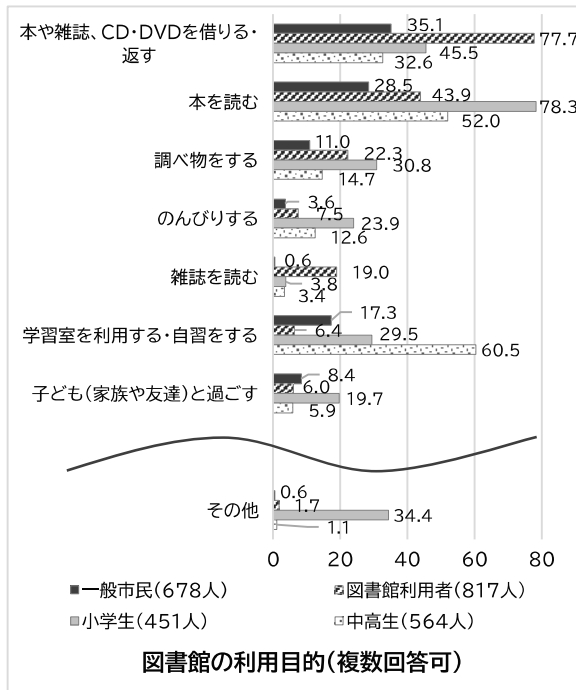
[一般市民]約半数の人がひと月に1~3冊本を読む一方で、3人に1人が全く本を読まない。
[20歳代]ひと月に全く本を読まない人が約半数。

■ 図書館の利用



[中高生]図書館を「ほとんど利用しない」または「全く利用しない」人の割合が60%以上。
[20歳代]図書館を「ほとんど利用しない」または「全く利用しない」人の割合が70%以上。他の年代と比べ、本を読むときに電子書籍を購入する方法をとる人が多い。
[30歳代]図書館の利用頻度が20歳代までより上がる傾向。

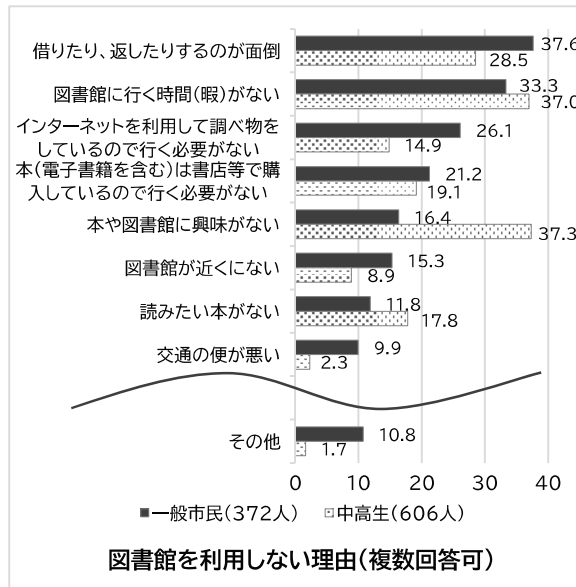
■ 図書館の利用の仕方



[大人(一般市民と図書館利用者)]本などを借りたり返したりするために来館する人が多く、特に[利用者]は80%近くが本を借りるために来館している。

[子ども(中高生と小学生)]半数以上が図書館で本を読むために来館している。[中高生]は学習室を利用する人も多い。

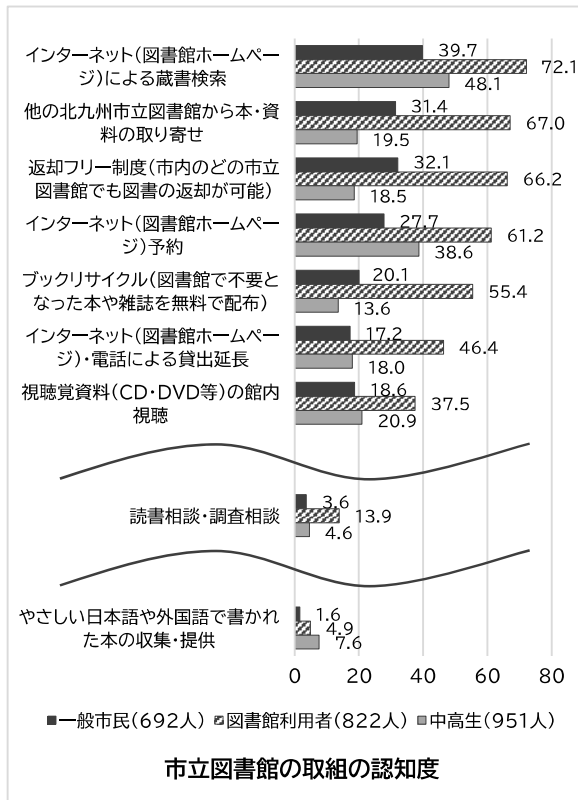
■ 図書館を利用しない理由



[中高生]

他の年代と比べ、「本や図書館に興味がない」、「読みたい本がない」などの回答が多い。一般市民の[20歳代]も同様の傾向。

■ 図書館サービスの認知度

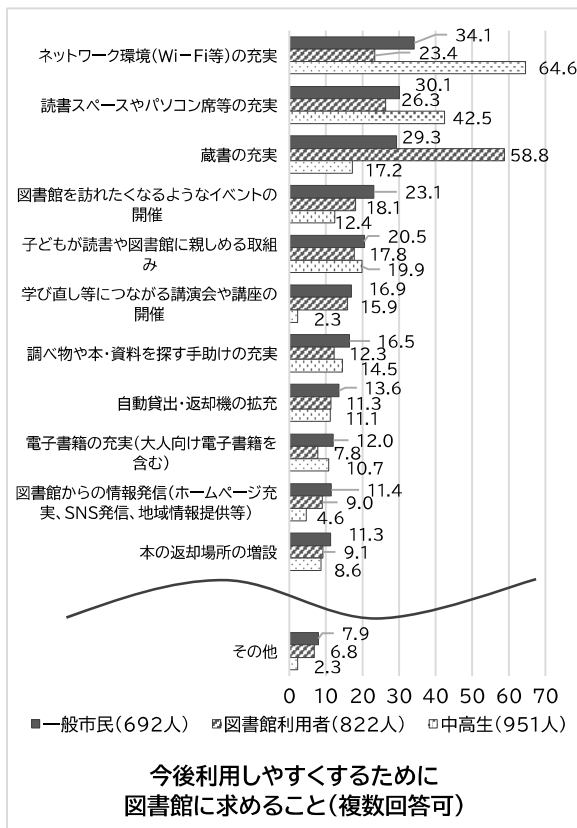


[図書館利用者]最も認知度が高かった図書館サービスは「インターネットによる蔵書検索」で70%程度。

[一般市民]どの図書館サービスも認知度は50%以下だった。

[その他]「読書相談・調査相談(=レファレンスサービス)」の認知度は[一般市民]や[中高生]では5%以下で、[図書館利用者]でも15%程度だった。

■ 図書館に求める取組等

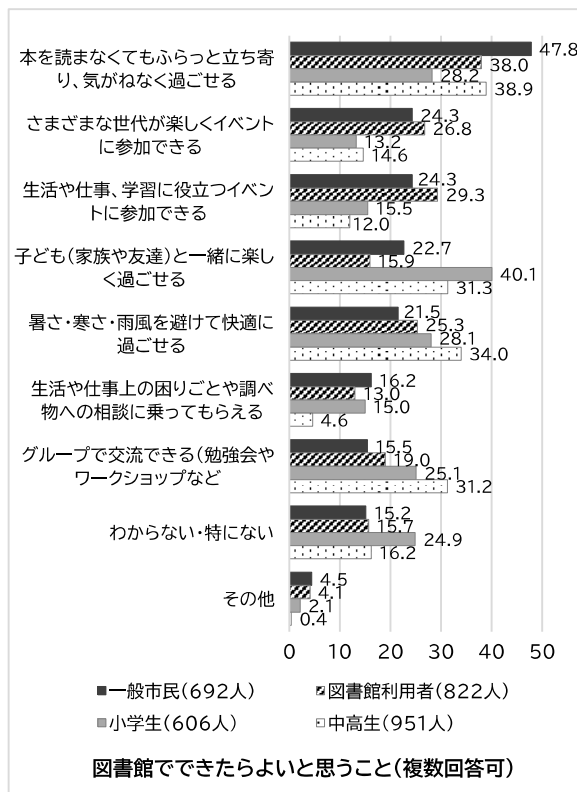


[一般市民]今後利用しやすくするための取組として、約3分の1の人がネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実を求めている。

[図書館利用者]蔵書の充実を求めている人が最も多い。

[中高生]60%以上の人がネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実を求めている。

■ 図書館でできたらよいと思うこと



【一般市民】【図書館利用者】【中高生】本を読む・借りる以外に、本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせるとよいと考えている。

【小学生】本を読む・借りる以外に、子ども(家族や友達)と一緒に楽しく過ごせるとよいと考えている。

(2) 利用者アンケート

図書館では、利用者を対象に毎年度(令和元(2019)年度を除く)アンケート調査を実施し、図書館サービスの満足度を調査しています。

図書館の各サービスに対し、図書館利用者が「非常に満足」又は「満足」とした回答の割合の合計(令和5(2023)年度時点)は、「職員の応対」及び「職員の知識や説明」では98%以上、「調べものの支援」及び「展示・行事の内容」、「探しやすい配架」では93%前後となっています。「充実した蔵書」については、90%となっており、図書館利用者の満足度は高いといえます。

5 北九州市立図書館協議会

北九州市立図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕について、館長に対して意見を述べる機関で、教育委員会が任命した委員により構成されています。

区分	氏名	所属団体役職名	備考
学校教育 関係者	本田 壽志	北九州市学校図書館協議会会長	
	上満 佳子	北九州市学校図書館協議会副会長	
	谷川 陽一	福岡県公立高等学校長協会北九州地区前会長	～R6.4.25
	石川 一仁	福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	R6.4.26～
	麻生 恭子	(一社)北九州市私立幼稚園連盟前理事	～R6.4.25
	有田 裕子	(一社)北九州市私立幼稚園連盟理事	R6.4.26～
家庭教育 の向上に 資する活動 を行う者	福田 百合加	(一社)北九州市PTA協議会相談役	副会長
	北野 久美	(一社)北九州市保育所連盟副会長	～R6.4.25
	伊賀良 昌宏	(一社)北九州市保育所連盟副会長	R6.4.26～
	末吉 智久美	(一社)北九州青年会議所理事	
	山中 啓稔	公募委員	
社会教育 関係者	宮本 和代	北九州市社会教育委員	
	吉松 喜美子	北九州市婦人団体協議会監査	
	林 芳江	北九州市障害福祉団体連絡協議会会長	
	阿部 和代	北九州児童文化連盟副会長	～R6.6.27
	八木 真恵	北九州児童文化連盟理事	R6.6.28～
学識経験 者	中尾 泰士	北九州市立大学前図書館長	会長
	山口 秋義	九州国際大学図書館長	
	鈴木 研	公募委員	

(敬称略)

6 策定の経過

事前の市民意識調査、利用者アンケート、市民意見公募(パブリックコメント)手続きなどにより、ひろく市民の意見を取り入れながら本計画を策定しました。

令和5年 5月 (2023)	北九州市立図書館協議会へ諮問 これからの図書館のあり方について(諮問)
8月	市民意識調査 「これからの図書館のあり方」に関するアンケート
令和6年 5月 (2024)	北九州市立図書館協議会による答申 これからの図書館のあり方について(答申)
6月	策定について報告 市議会常任委員会にて、基本計画の策定について報告
7月	素案の提示 ○北九州市立図書館協議会(7月) ○北九州市教育委員会会議(9月) ○市議会常任委員会(10月) ○市民意見公募(10月9日~11月5日)
12月	最終案の公表 市議会常任委員会にて、基本計画の策定について報告
令和7年 3月 (2025)	策定

7 参考文献

- *図書館情報学基礎資料第4版 今まど子・小山憲司 編 樹村房 2022.3.31
- *図書館情報学辞典 日本図書館情報学会 編 丸善出版 2023.7.30
- *図書館ハンドブック第6版補訂2版 日本図書館協会 図書館ハンドブック編集委員会 日本図書館協会 2017.9.20